

# 展示名: 『世界経済打撃! リーマンショックから一年 実感できない回復の兆し』

アメリカのサブプライムローンに端を発した経済不況が全世界に波及し、100年に一度と評される打撃を金融や雇用に与えることとなった。リーマンブラザーズの破綻後、各国が協調し経済危機への対応に当たったところ、金融・製造等において、数値的には回復の兆しがみえつつある。一方で、日常生活においては、回復を実感できるまでには至っていない。経済は「いきもの」、完全に回復するには、数年がかかるといわれている。公の役割は、大きい。

展示期間 平成21年8月29日～10月15日

## 展示本リスト

平成21年10月14日現在【高知県立図書館所蔵】

	書名	著者	出版社	出版年	請求記号	内容(日販MARCほか)
1	その時歴史が動いた 19	NHK取材班／編	KTC中央出版	2003	210.04	『金融危機を救った渋沢栄一の決断』(p.160～205)
2	その先が読めるビジネス年表	『日本の論点』編集部	文藝春秋	2009	304/リ	日本経済、グローバル経済、産業の衰退、技術革新、経営、雇用、教育、家族などの10分野を、分野ごとに図解年表で紹介。それぞれの大きな流れの中で何が重要なのかを示し、背景を詳解、将来を予測する。
3	ネクスト・ソサエティ 歴史が見たことのない未来がはじまる	P. F. ドラッカー 上田 惇生／訳	ダイヤモンド社	2002	304/ト	混沌と変化の中の流れをつかめ。世界は大転換期を経て、まったく新しい姿に変わろうとしている。従来の予想とは異質の新しい社会の出現を描き、明日のために今日動くべきことを説く、ドラッカー書き下ろし最新作。
4	すでに起こった未来 変化を読む眼	P. F. ドラッカー 上田 惇生／[ほか]訳	ダイヤモンド社	1994	304/ト	
5	未来への決断 大転換期のサバイバル・マニュアル	P. F. ドラッカー 上田 惇生／[ほか]訳	ダイヤモンド社	1995	304/ト	
6	日本の論点 2009	文藝春秋／編	文藝春秋	2009	304/ニ	『①-01 金融危機の行き着く先は』(p.38-43) 『② グローバルマネーのゆくえ』(p.80-105) 『③ せとぎわの日本経済』(p.108-128)
7	松下幸之助の哲学 いかに生き、いかに栄えるか	松下 幸之助	PHP研究所	2002	304/マ	宇宙の根源から人間、社会、政治、人生全般にわたる壮大な哲学。松下幸之助が生涯を通して思索を重ね、生み出してきた考え方をまとめる。21世紀の新たな時代における問題の根本的解決や生きがい創造へのヒント。
8	1998年の大恐慌	水山 昭	フォレスト出版	1997	304/ミ	
9	アメリカ型市場原理主義の 終焉 現代社会と人間のゆくえ	山本 武信	晃洋書房	2009	304/ヤ	

10	「経済人」の終わり 全体主義はなぜ生まれたか	P・F・ドラッカー 上田 惇生／訳	ダイヤモンド社	1997	311.8	
11	経済危機「100年に一度」 の大嘘 (CONUNDRUM 2009 Summer)	山崎 元 波頭 亮 村上 尚己 田中 秀臣 小幡 績 ほか	講談社	2009	330.4	バブル崩壊を必要以上に過大視してはいないか。チーム・オバマは成功するか。各国は経済政策で暴走していないか。世界経済の「謎」を解き明かす論文、対談などを掲載。エグゼクティブの思考カトレーニング・ガイド。
12	反経済学講座	犬走 文彦	新潮社	2009	331	金融工学の使い手も、市場原理主義者も、間違いを犯した。なぜなのか。そもそも経済学って、役に立つのか…。現実を見誤る経済学者たちへのアンチの書にして、罠に陥らないための見きわめ方指南。
13	経済は感情で動く はじめての行動経済学	マッテオ・モッテリ リーニ 泉 典子	紀伊国屋書店	2008	331	進むも地獄、退くも地獄の「コンコルドの誤謬」、会議を支配する「アンカリング効果」…。最新の行動経済学と神経経済学のエッセンスをクイズ形式で説く、ビジネスのヒントに溢れた興味深い1冊。
14	大不況で世界はこう変わる！	榊原 英資	朝日新聞出版	2009	332	金融バブル崩壊から、消費バブル崩壊へ。製造業の破たん危機、新興国の失速、ドル暴落はあるのか。“ミスター円”と呼ばれる著者が、世界経済のパラダイムシフトを解き明かし、日本がとるべき不況脱出戦略を提言。
15	世界恐慌を生き抜く経済学	エコノミスト編集部/ 編	毎日新聞社	2008	332	週刊エコミストの金融危機に関する緊急特集号の記事に、リーマンブラザーズ破綻以降の動向を踏まえて、加筆修正したもの。「100年に1度の金融危機』を経済学、経済理論の面から冷静に理解するための一冊。(K)
16	資本主義はなぜ自壊したのか	中谷 巖	集英社インターナショナル	2008	332	著者の「中谷巖」氏は構造改革の旗手として政策決定にも力を及ぼす人物であった。そのような新自由主義側の人間がこの未曾有の危機に直面し、「転向」し、危機から脱出するための提言に真実味があるのかないのか？あなたの目で確かめてみませんか？(K)
17	バブル・リレー	山口 義行	岩波書店	2009	332	バブルはなぜ繰り返すのか？一時的には大好況が生まれながら、一転してその高揚が「負の遺産」となって、実体経済を深刻な停滞に陥れる…。そのドラマを引き起こしてきたのは、行き場を探して世界中を駆けぐる過剰資本、つまり過剰に生まれた国際通貨ドルの運動である。(表紙見開きより)
18	大不況下の世界 1929- 1939 改訂増補版	チャールズ・P. キン ドルバーガー 石崎昭彦、木村一 朗／訳	岩波書店	2009	332	大恐慌の発生と深刻化の原因は。現代を考える際にも示唆に富む国際経済学・比較経済史の碩学による名著。

19	高校生でもわかる日本経済のすごさ！	三橋貴明 廣宮孝信／監修	彩図社	2009	332.1	
20	未曾有の経済危機克服の処方箋 国、企業、個人がなすべきこと	野口 悠紀雄	ダイヤモンド社	2009	332.1	危機の本質は、米・中・日の相互依存バブルの連鎖崩壊だった。アメリカ経済の急落が止まった時、日本は再生への道を歩み始められるか。広範なデータを駆使して危機の真相を解明し、克服へのビジョンを示した決定版。
21	恐慌前夜 アメリカと心中する日本経済	副島 隆彦	祥伝社	2008	332.1	「やがてアメリカ経済は恐慌状態に陥り、ドルはさらに暴落する」と予測する著者。日本経済の今後の大変化を大胆に予測する。
22	「大恐慌型」不況	侘美 光彦	講談社	1998	332.1	
23	金融恐慌蔵相高橋是清の四十四日	高橋 義夫	ダイヤモンド社	1998	332.1	1927年の金融恐慌で、高橋是清蔵相は裏白の200円札を大量に発行し、人々にビジュアルで安定を訴える作戦に出た。発生から鎮静までの財界、政界、そして高橋是清の行動を追う。(K)
24	恐慌の罨	ホール・クルーグマン 中岡 望／訳	中央公論新社	2002	332.1	
25	「陰」と「陽」の経済学	リチャード・クー	東洋経済新報社	2007	332.1	1930年代の世界大恐慌も、今回の日本と同じバランスシート不況だった。大恐慌の教訓を抛り所にする主流派経済学の分析・理論を、日本の経験をもとに論破。戦後最長の景気拡大に潜むリスクを考察する。
26	「依存症(いぞんしょう)」の日本経済	上野 泰也	講談社	2009	332.1	危機の真因は「ひとり立ちできない経済」にあり。まだ続く「米国依存」、金融市場の「外国人依存」、復活する「規制依存」など、日本経済の10の問題とそこからの脱却法を、人気エコノミストが教える。
27	日本の経済針路	鈴木 淑夫	岩波書店	2009	332.1	今回の経済危機が、歴代自民党政権の執政の積み重ねであることを明らかにするが、その失敗をあげつらうだけの本ではない。8月の衆院選後の新政権が行うべき海外経済の浮沈に頼らないで内需型の経済政策への転換提言も行っている。未来志向の本。
28	グリーン・リカバリー	三橋 規宏	日本経済新聞出版社	2009	332.1	この著者は経済危機はもう起こってしまったものとして捉えており、後悔を語らない。この現状から脱する為、従来型の場当たりの景気対策ではなく、抜本的な転換をするために何をすべきか。次世代産業の育成と温暖化対策を両立させ、景気対策と長期的効果を実現する、グリーンニューディール構想を作者は掲げる。
29	虚構のインフレ	上野 泰也	東洋経済新報社	2008	332.1	原油高が続いていた昨年、いろいろな物が値上がりして、もはやデフレでなくてインフレじゃない？とお思いになった方もいらっしゃるのではないのでしょうか？この本では、そのインフレ報道が虚構であることを明らかにするとともに、だまされずに生活を守るにはどうするべきかを解く。

30	金融崩壊 昭和経済恐慌からのメッセー	塩田 潮	日本経済新聞社	1998	332.1	1930年に時の濱口雄幸内閣が金本位制を施工した事により端を発した昭和恐慌自体も1929年のウォール街の株価暴落に端を発する世界恐慌の流れの中であった。100年に一度と称される現在の金融が80年前の強行から学ぶべき事は多い。(K)
31	年収300万円時代を生き抜く経済学 新版 給料半減でも豊かに生きるために (知恵の森文庫)	森永 卓郎	光文社	2005	332.1	小泉構造改革とは、ほんの一握りの金持ち階級と圧倒的多数の低所得層とに日本をわけたものだった！9割のサラリーマンが「負け組み」に向かうなか、可能性のない「成功」をめざすか、自分にとって「幸福」な人生をめざすのか。安定が崩れ去った日本社会での「永森流前向き生き方」。(表紙より)
32	転んでもタダでは起きない 経済学	長谷川 慶太郎	幻冬舎	2000	332.1	なぜバブルが発生したのか、なぜ多くの人々がそのバブルに巻きこまれたのか検証し、その教訓を学ぶことで冷静な対応をとることができる。図やイラスト入りでわかりやすく説明。
33	ズバリ！先読み日本経済	竹中 平蔵 田原総一郎	アスコム	2008	332.1	不況、格差、貧困など、山積する日本の難題。そして、アメリカ発世界恐慌の影響で日本はどうなるのか。“諸悪の根源”といわれる小泉・竹中改革の司令官が、日本経済の行方を緊急分析。田原総一郎が徹底追及する。
34	アメリカ大恐慌 忘れられた人々」の物語 上	アミティ・シュレーズ 田村 勝省／訳	NTT出版	2008	332.5	その時、大統領とアメリカ国民はどう行動したのか…。1929年の株式市場の大暴落に始まるアメリカ大恐慌の時代を、膨大な資料を駆使して描いたノンフィクション大作。全米ベストセラー。
35	アメリカ大恐慌 忘れられた人々」の物語 下	アミティ・シュレーズ 田村 勝省／訳	NTT出版	2008	332.5	ニューディール政策はうまくいったかに見えたが…。欧州の戦雲急を告げる中、ローズヴェルト大統領は3選目を狙う。アメリカの大恐慌の歴史を、有名も無名も含めた多くの人物のエピソードを通して雄大に描く。
36	失墜するアメリカ経済	ロバート・ポーリン 佐藤良一・芳賀健一／訳	日本経済評論社	2008	332.5	サブプライム危機に揺らぐ米国経済。ニューエコノミーは、株式・住宅バブルによる空虚な好況であった。途上国をも巻き込むネオリベリズムとは。本書では、丹念な実証に基づき、代替策を提案する。
37	グローバル資本主義の未来 危機の連鎖は断ち切れるか	藤原帰一、NHK 「地球特派員」取材班／編著	日本放送出版協会	2009	333.6	未曾有の金融危機に直撃される世界と日本。迷走する世界はどこへ向かうのか。現代日本を代表する知性、藤原帰一、岡本行夫、大田弘子ら7人が、暴走するグローバル資本主義の行く末、そして日本の未来を読み解く。
38	人々はなぜグローバル経済の本質を見誤るのか	水野 和夫	日本経済新聞出版社	2007	333.6	1995年を境に、大航海時代にも匹敵する「世界経済システムの変革」が始まった。第一級のエコノミストが明らかにする、グローバル経済の驚くべき姿とは。新しい時代の経済の読み方を伝授する1冊。

39	世界大不況からの脱出 なぜ恐慌型経済は広がったのか	ポール・クルーグマン 三上義一／訳	早川書房	2009	333.6	大不況「拡大感染」のメカニズムとは。どうすれば「治療」「予防」できるのか。ノーベル経済学者が2008年の経済崩壊を導いた構造を解き明かし、今何をすべきかを示唆。「世界大不況への警告」改訂増補版。
40	売り手よし買い手よし世間よし 近江商人成功の哲学	渡辺 一雄	実業之日本社	1998	335.1 ジョブ	
41	松下幸之助の経営問答	松下 幸之助／ 〔述〕 PHP総合研究所研究本部／編	PHP研究所	2000	335.1 ジョブ	松下幸之助は、どのようにして不況を克服したか。また、様々な経営課題をどのように解決していったか。Q&A方式で要点を説く。
42	恐慌・不況の経済学	林 直道	新日本出版社	2000	337.9 ジョブ	
43	世界大恐慌	侘美 光彦	御茶の水書房	1994	337.9 ジョブ	
44	めちやくちやわかるよ！金融	坪井賢一 ダイヤモンド社	ダイヤモンド社	2009	338 ジョブ	ベーシックな金融のしくみから、最新の経済ニュースの裏側まで、お金の流れがバッチリ見える、入門書の決定版。難解な金融用語も丸わかり、丁寧にかみ砕いた解説で、金融の知識ゼロの人でも安心の1冊。
45	金融読本(第27版)	島村高嘉 中島真志	東洋経済新報社	2009	338 ジョブ	金融の制度・実務・歴史・理論をバランスよく解説し、初学者から実務家まで幅広いニーズに応える入門テキスト。国際金融市場の現状、サブプライム問題と金融危機など、最新の状況を織り込んだ2009年改訂版。
46	みんなが幸せになる「お金」と「経済」の話 1億人が気づきはじめたマネー支配と効率主義の限界	天野 敦之	すばる舎	2009	338 ジョブ	なぜこのような金融危機や経済危機が起きたのか。その根底にある本当の原因について解説。金融や経済のしくみをやさしく説き、問題と解決策を探る。お金との理想的な関係、本当の幸せについて考えるための1冊。
47	金融危機の本質は何か ファイナンス理論からのアプローチ	野口 悠紀雄	東洋経済新報社	2009	338 ジョブ	サブプライム問題は金融危機へと波及した。そこで使われたデリバティブ取引は諸悪の根源か。証券化やCDSは悪魔の発明なのか。最先端の金融を理解するためのファイナンス理論の基礎を説く1冊。
48	サブプライム問題の教訓 証券化と格付けの精神	江川 由紀雄	商事法務	2007	338.1 ジョブ	
49	金融社会主義 クラッシュに続く混乱と清算の30年	高田 創 柴崎 健 石原 哲夫	東洋経済新報社	2009	338.1 ジョブ	サブプライム金融危機を境に市場原理主義は金融社会主義へと大転換した。公的セクターの急膨張や、実態経済の金融商品化というダイナミックな変化を踏まえて描く市場の将来像。

50	メルトダウン 金融溶解	トーマス・ウッズ／著 古村治彦／訳	成甲書房	2009	338.2 ジョブ	金融はどうしてメルトダウンしたのか。アメリカ震源の金融恐慌はまだ終わらない。FRB連邦準備制度の大罪を暴く全米ベストセラーを副島隆彦が監訳・解説。今回の金融大恐慌が発生した真因を明らかにする。
51	ウォール街の崩壊の裏で何が起きていたのか？セルサイドからバイサイドへの勢力の逆転を現場の声で伝える	リチャード・ゴールドバーグ 田村勝省／訳	一灯舎	2009	338.2 ジョブ	変化して止まらないウォール街では、歴史に残るような戦いが繰り広げられている。ウォール街のベテランである著者が、セルサイドとバイサイドという巨人2人の間の権力闘争を追跡、現場の状況を生き生きと伝えた書。
52	波乱の時代 上	アラン・グリーンSPAN 山岡 洋一、高遠裕子／訳	日本経済新聞出版社	2007	338.2 ジョブ	歴代大統領をしのぐ影響力。18年間にわたって、世界経済の司令塔として活躍したグリーンSPAN前FRB議長。彼が歴代政権で果たした役割を語り、その時、何を見つめ、何を考えていたかを明かす。
53	サブプライムの実相	大沢 和人	商事法務	2007	338.2 ジョブ	
54	波乱の時代 下	アラン・グリーンSPAN 山岡 洋一、高遠裕子／訳	日本経済新聞出版社	2007	338.2 ジョブ	全米大ベストセラー、待望の邦訳。資本主義や金利についての「グリーンSPANの哲学」を語るとともに、中国やインドの発展、広がる格差など、今日重要なテーマを論じた上で、2030年の世界の姿を予測する。
55	サブプライム金融危機	みずほ総合研究所／編	日本経済新聞出版社	2007	338.2 ジョブ	アメリカの住宅ローン危機から発生し、世界を襲ったサブプライム危機。証券化、国際金融の複雑な流れに乗って世界を席卷し、その衝撃は日本にも及んでいる。サブプライム危機を解明し、行方を展望する待望の解説書。
56	実感なき景気回復に潜む金融恐慌の罠	菊池 英博	ダイヤモンド社	2007	338.2 ジョブ	金融面から見た「構造改革」が、いかに間違った理念で強行されたか、その結果、日本の金融システムが弱体化している事実を説明し、「ゆうちょ銀行」などの活動が金融システムを崩壊させる起爆剤であると解説する。
57	金融危機の教訓 行政と司法の役割分担と処方箋 (西村高等法務研究所叢書4)	西村高等法務研究所／責任編集 落合誠一、五味廣文、鬼頭季郎、武井一浩／編著	商事法務	2009	338.3 ジョブ	日本では「失われた10年」の中で先行的に金融危機を経験し、立法・行政・司法のまさに国を挙げて各種の対応をとってきた歴史がある。本書はそうした歴史について、各分野の専門家の議論と共に振り返り、もって今後の参考に供することを目的として刊行されたものである。(はしがきより抜粋)
58	サブプライムを売った男の告白	リチャード・ビトナー／著 金井真弓／訳	ダイヤモンド社	2008	338.7 ジョブ	サブプライム住宅金融業界の隠された部分を公開し、内部にいた者の視点からその実態を描いた書。現場の空気を伝える内容から、解決策を探り、下げ相場でいかにビジネスチャンスを見出していくかのヒントを示唆する。

59	実録 * サブプライム危機	ポール・ミュオロ マシュー・パディラ 可児滋 / 訳	日本評論社	2009	338.7 ジョブ	経済危機の元凶サブプライム問題がなぜ起こったか。住宅ローン・投資銀行界のトップ、証券化商品発案者などへの取材で明らかにする。
60	サブプライム危機はこうして始まった	ブルース・E. ヘンダーソン・ジョージア・ガイス 橋本 碩也 / 訳	ランダムハウス講談社	2008	338.7 ジョブ	サブプライムは金融TSUNAMIだ。米国の根幹を揺るがした金融恐慌はなぜ起こり、今後の世界経済のどこまで波及するのか。サブプライム危機およびその衝撃について概況を伝え、解説を試みた最新レポート。
61	サブプライム問題とアメリカの住宅金融市場	小林 正宏 安田 裕美子	住宅新報社	2008	338.7 ジョブ	ファニーメイに派遣経験のある著者らが、アメリカ発の金融危機の全体像を解説。住宅市場と証券化市場の関係を有機的に解説し、初心者にもアメリカの住宅金融市場を俯瞰できるよう説明した1冊。
62	政府系ファンド 巨大マネーの真実	小原 篤次	日本経済新聞出版社	2009	338.8 ジョブ	十分に影響力を持っていたヘッジファンドを凌駕する政府系ファンド。中国・アラブ首長国連邦、ロシアなど新興国と呼ばれる国々の政府系ファンドが世界経済に大きな影響を持つようになったのはなぜなのか？政府系ファンドを知るための入門書としてどうぞ。
63	実録 * 世界金融危機 (日経ビジネス人文庫 485)	日本経済新聞社 / 編	日本経済新聞出版社	2009	338.9 ジョブ	なぜ、米国の不動産ローン危機が世界的な大金融危機に拡大してしまったのか？危機の勃発から米自動車産業救済問題、中小国を襲った激震など直近の動向まで、日経新聞記者が、世界金融危機のすべてを解説する「決定版」。(カバー裏表紙より)
64	金融危機はなぜ起きたか？	松原 隆一郎	新書館	2009	338.9 ジョブ	我々は気付かぬうちに再びバブルに陥っていた。なぜ、未曾有の金融危機に陥ったのか。本書では、アメリカ発の金融危機や日本における平成不況を、経済思想を想起しつつ検討する。未来のために緊急出版。
65	サブプライムから世界恐慌へ	伊藤 誠	青土社	2009	338.9 ジョブ	現在の世界恐慌は何を意味するのか、そして、これからの世界はどこに向かうのか…。恐慌論の専門家が、現代の金融恐慌の発端、特徴、歴史的意義をわかりやすく解説。現代恐慌論の決定版にして入門書。
66	14歳からの世界金融危機。	池上 彰	マガジンハウス	2009	338.9 ジョブ	世界恐慌から、サブプライムローン破綻、原油価格の高騰と暴落、砂上楼阁のドバイ、日本銀行の貸し渋り、オバマ大統領就任まで、旬のニュースをやさしく紹介。世界金融危機が45分でわかる1冊。
67	はじめてのグローバル金融市場論 金融リテラシーを身に付ける	藤田 勉 竹中 平蔵 / 監修	毎日新聞社	2009	338.9 ジョブ	世界経済は本当に「100年に一度の危機」なのか。答えは×。3年連続日経ランキングNO.1ストラテジストが教える「常識のウソ」。世界標準の金融リテラシーを身に付ける本。

68	ドル崩壊！ 今、世界に何が起きているのか？	三橋 貴明	彩図社	2008	338.9 ジョブ	
69	世界金融危機	金子 勝 アンドリュー・デ ウィット	岩波書店	2008	338.9 ジョブ	サブプライム破綻、石油の高騰、深刻化する食糧不足。これは世界大恐慌の再来か。現状を詳細に解説。
70	「アメリカ覇権」という信仰 ドル暴落と日本の選択	E. トッド ほか	藤原書店	2009	338.9 ジョブ	時代の危機、今後生じる得る破局からも目を背けず、トッドの言う「何ごととも短期という強迫観念」を脱して、長期的な視点から、日本の経済と社会のあるべき将来を、そしてアジアと世界の未来を、主体的に描くべきではないか (はじめにより抜粋)
71	世界経済同時危機 グローバル不況の実態と 行方	原田 泰 大和総研	日本経済新聞出版社	2009	338.9 ジョブ	アメリカ発の金融危機が世界を未曾有の同時不況に陥れている。中軸であるアメリカを欠いた世界経済はどんな姿になるだろうか。揺れ動く欧州、中国、ロシア、インドなどの近未来像を大胆にシミュレーションする。
72	金融危機の資本論 グローバル化以降、世界はどうなるのか	本山 美彦 萱野 稔人	青土社	2008	338.9 ジョブ	アメリカ型金融はなぜ崩壊したのか。そして、資本主義はどこへいくのか。資本主義の歴史的構造変化と日米関係から、世界金融危機の全体像を鮮やかに描き出す。混迷の時代、現実を見据えるための視野と理論を提供。
73	なぜ世界は不況に陥った のか 集中講義・金融危機と経済学	池尾 和人 池田 信夫	日経BP社	2009	338.9 ジョブ	古い経済思想に囚われている政治家・官僚・ジャーナリストのための、「世界標準」の経済学講義。今回の経済危機の分析だけにとどまらず、経済学的知見を活用し、日本の「失われた10年」の原因分析も含めて説明。
74	メルトダウン 21世紀型「金融恐慌」の 深層	榊原 英資	朝日新聞出版	2009	338.9 ジョブ	「ミスター円」の愛称を持ち、官僚として90年代の国際金融の最前線に立ち、国際金融界に多彩な人脈を持つ著者が放つ金融危機の深層。グリーンズパンが登場した80年代から、密やかに潜んでいた世界同時不況の根源を語る。
75	金融危機の経済学	岩田 規久男	東洋経済新報社	2009	338.9 ジョブ	なぜアメリカ政府とFRBは、危機拡大を防げなかったのか。金融危機を繰り返さないためには、どのような政策が必要なのか。今回の世界金融危機の理解と、今後の金融危機対策の構築のための1冊。
76	為替が動くとうなるか 時代即応版	角川 総一	明日香出版社	2007	338.9 ジョブ	日本一やさしい、為替をめぐる世界経済のメカニズムがわかる本。初心者向けに、日常用語に近い言葉で説明し、理屈を述べる箇所は、その証拠を具体的なデータとして示した。
77	21世紀型金融危機とIMF	児玉 茂ほか	東洋経済新報社	1999	338.9 ジョブ	

78	市場原理主義の終焉 国際金融の十五年	榊原 英資	PHP研究所	1999	338.9 ジョブ	
79	金融グローバル化の危機 国際金融規制の経済学	J. L. イートウェル L. J. テイラー 岩本 武和、伊豆 久ノ訳	岩波書店	2001	338.9 ジョブ	一経済主体のリスク管理の失敗が市場の不安定性を招き、世界規模で伝染する今日、金融自由化の利益とコストを見据え、国際金融市場の監視と規制、そのための国際機関の必要性を提言する。
80	日米同時破産 中国覇権による恐ろしい時代がやってくる	森木 亮	ダイヤモンド社	2009	342.1	FRBの破産、米国債デフォルト、ドル崩壊、人民元の基軸通貨化…。アメリカ発の金融危機から、今日米両国は破産の危機に直面している。大きく変わる世界システム、破産国家から資金を守る方法などを綴る。
81	たった1%の賃下げが99%を幸せにする	城 繁幸	東洋経済新報社	2009	366 ジョブ	相次ぐ派遣切り、「3年3割」問題、転職「35歳限界」説、中堅社員のメンタルトラブル…。全ての問題を解消する秘策とは。「若者3年」シリーズの著者による、正社員と非正規の99%が幸せに働ける画期的提案。
82	大搾取！	スティープン・グリーン ハウス 曾田和子ノ訳	文藝春秋	2009	366 ジョブ	施錠されて働く労働者。泥棒逮捕のケガでクビになる警備員。セクハラ狂言訴訟で組合潰し。ニューヨークタイムズ現役記者が告発する、「コスト削減至上主義」の最進国の実態。
83	なぜGMは転落したのか	ロジャー・ローウェン スタインノ著 鬼澤 忍ノ訳	日本経済新聞出版社	2009	366.4 ジョブ	世界経済を揺るがすビッグスリー危機の真相とは。「世界一の自動車メーカー」GMが倒産の崖っぷちに追い込まれた姿を軸に、米国屈指の金融ジャーナリストが、経済のブラックホール＝企業年金問題の実態を解明する。
84	派遣村 国を動かした6日間	年越し派遣村実行 委員会ノ編	毎日新聞社	2009	366.8 ジョブ	職と住居を失った派遣労働者を支援するために開設された派遣村で何が行われたか、その実像を内部から伝えるドキュメント。人間の尊厳を奪う貧困と、派遣村に萌芽した新しい社会的連帯の可能性を浮き彫りにする。
85	市場主義のたそがれ 新自由主義の光と影 (中公新書 2008)	根井 雅弘	中央公論新社	2009	S331.7	万能であるかに見え、隆盛を極めた市場主義も最初は異端であった。その旗振り役であった現代シカゴ学派のリーダーたるミルトン・フリードマン。本書では、フリードマンを中心に現代シカゴ学派の人々が掲げた経済思想について述べるとともに、その功罪を明らかにする。
86	不況もまたよし	津本 陽	幻冬舎	2000	F/ツモト	太平洋戦争を含め、何度も苦境・不況を乗り越え松下電器産業を世界に冠たる電機メーカーに一代で押し上げた松下幸之助の伝記小説。「商人に好況、不況は無い。何れにしても儲けなくてはならぬ」の名言が身に沁みる。

87	未納が増えると年金が破綻する」って誰が言った？	細野 真宏	扶桑社	2009	S330.4	アメリカ発の世界不況の仕組み」と「年金問題」といった、現在の世の中で「難しい」と思われている2大テーマを中心に、論理的にわかりやすく解説。物事の本質の部分を理解できる「数学的思考法」が身に付く書。
88	不況のメカニズム ケインズ『一般理論』から 新たな「不況動学」へ (中公新書 1893)	小野 善康	中央公論新社	2007	S331.7	新古典派経済学者が先導した小泉「構造改革」は、果たして有効な措置だったのか。経済学者間の意見は対立し続け、経済学への信頼までも揺らいでいる。本書は、ケインズ『一般理論』に立ち戻り、不況の原理を探る。
89	恐慌第2波 世界同時不況を日本が生き残る道 (角川SSC新書 059)	門倉 貴史	角川SSCコミュニケーションズ	2009	S332	サブプライムという燻り続けた火種は、リーマン・ショックによって爆発し、不況の波が世界中を飲み込もうとしている。金融危機が实体经济に影響を及ぼすのは、まだこれからである。(中略)米国が求心力を失い、世界が多極化する時代に、日本が生き残る方策はあるのか？ (表紙カバーより)
90	資本主義の暴走をいかに抑えるか (ちくま新書 780)	柴田 徳太郎	筑摩書房	2009	S332	本書は、現在の世界的経済危機にいたるまでの市場と制度の進化を丹念にたどりなおし、今後、「市場と社会の」調和を図るためにはどのような制度改革が望ましいのかを提言する。 (表紙カバー見開きより抜粋)
91	中国経済がダメになる理由 サブプライム後の日中関係を読む	石 平 三橋 貴明	PHP研究所	2009	S332.2	マスコミの幻想に騙されるな。日本に帰化した知日派中国人と気鋭の経済ウォッチャー、中国通のふたりが、中国の実態とこれからのネット社会の行方を占う。「対談」と「書き下ろし」でズバツと斬る1冊。
92	長期停滞 (ちくま新書 358)	金子 勝	筑摩書房	2002	S333.6	大恐慌期以来の70年ぶりの世界同時不況の真っ只中にある日本。「長期停滞」の時代からの脱却の道はあるのか。歴史的考察を通じて現在の日本経済、世界経済の位相をとらえ、日本の経済政策の転換を促す注目の論考。
93	やはり、ドルは暴落する！ 日本と世界はこうなる (Wac bunko B-095)	宮崎 正弘	ワック	2009	S333.6	世界同時不況に関する一般向けの解説本の中では珍しく、アジア圏及びロシア・東欧地域の現状についても触れており、日欧米の現状ばかりで他の国はどうなってるんだろうと疑問が浮かんで離れないあなたにもお勧めできます。
94	グローバル恐慌 金融暴走時代の果てに (岩波新書 新赤版1168)	浜 矩子	岩波書店	2009	S333.6	世界はいま、「恐慌」の入口に立っている。危機拡大の要因は何か。世界同時不況はどこへ行くのか。
95	これからの「金融ルール」 がわかる本 金融秩序のパラダイムシフトを読み解く (PHPビジネス新書 093)	永野 良佑	PHP研究所	2009	S338	サブプライムローン問題を契機にした世界同時経済崩壊によって起こった金融秩序の大転換。そのパラダイムシフトの詳細を、金融ルールという視点でやさしく解き明かす。金融ルールの過去、現在、未来がわかる1冊。

96	日銀を知れば経済がわかる (平凡社新書 464)	池上 彰	平凡社	2009	S338.4	金融危機に挑む中央銀行「日本銀行」。日銀を知れば、金融ひいては経済を鳥瞰して理解できるようになる。グローバル金融危機の時代に不可欠な知識を、池上彰がやさしく解説。日銀のニュースがわかるようになる1冊。
97	欲張りで懲りないアメリカ人	有元美津世	祥伝社	2009	S338.7	
98	サブプライム問題の正しい考え方 (中公新書 1941)	倉橋透 小林正宏	中央公論新社	2008	S338.7	アメリカの住宅バブル崩壊から始まった世界信用収縮の危機。今回のサブプライム危機は、変動金利の住宅ローンが蔓延している日本の現状への警鐘でもある。問題の本質を明快に描き出し、日本のとるべき対応を考える。
99	早わかり*サブプライム不況 「100年に一度」の金融危機の構造と実相 (朝日新書 155)	中空 麻奈	朝日新聞出版	2009	S338.9	未曾有の大不況で今後、日本に起きることとは。リーマン・ショックの真相にも肉迫。気鋭の証券アナリストがその全貌を解説する。
100	世界同時不況 (ちくま新書 770)	岩田 規久男	筑摩書房	2009	S338.9	2008年秋、世界金融危機が発生した。世界金融危機はなぜ世界同時不況をもたらしたのか。100年に一度の未曾有の機器といわれる今回の不況は、1930年代の世界恐慌から何を学べるのか。世界恐慌や平成の「失われた10年」の歴史と比較しながら、世界およびわが国が、この不況からどうすれば脱出できるのかを緊急提言する。 (表紙カバー見開きより)
101	BIS規制の嘘 日本と世界の金融危機を招いた元凶	東谷 暁	PHP研究所	2009	S338.9	BIS規制は、アメリカのアメリカによるアメリカのための規制だった。日本の金融界を地獄へと導いた自己資本比率規制の実像を暴く。この10年の経緯を加え、最近の新BIS規制に関する議論と考察を付した改訂版
102	世界金融崩壊七つの罪 (PHP新書 582)	東谷 暁	PHP研究所	2009	S338.9	サブプライム・ローン問題が顕在化して以降、アメリカ発の金融危機は全世界に広がり、各地の経済が壊滅的な打撃を受けた。その原因とは何なのか。この危機の本質を、気鋭のジャーナリストが7つの視点から論じる。
103	世界はいつまでドルを支え続けるか (扶桑社新書 051)	田村 秀男	産経新聞出版	2009	S338.9	ドル金融市場に変わって世界の市場経済を回転させる仕組みは存在しない。金融危機が浮き彫りにした「基軸通貨ドル」の真の強さ。SANKEI EXPRESSの連載「田村秀男の国際政治経済学入門」
104	金融資産崩壊 なぜ「大恐慌」は繰り返されるのか (祥伝社新書 140)	岩崎 日出俊	祥伝社	2009	S338.9	金融危機から逃れられる人はいない。企業年金は破綻し、貯金が目減りし、仕事次々となくなっていく…。誰の身の上にも等しく襲いかかってくる金融危機の実態を観察し、対処法を考えるための好著。

105	ルポ*雇用劣化不況 (岩波新書 新赤版1181)	竹信 三恵子	岩波書店	2009	S366	ノルマに追われる正社員、過酷な労働を強いられた非正規社員…。人件費削減で労働現場は急速に劣化し、企業をさらなる不況に追い込む。緻密な取材で雇用の実態に迫り、打開の道を探る。
106	日本の雇用 ほんとうは何が問題なのか (講談社現代新書 1997)	大久保 幸夫	講談社	2009	S366.2	正社員2人に1人が不安を感じている。不況だからだけではない。この雇用不安はどこからくるのか。ミドル社員危機、正社員中心の組織の制度疲労、個人の孤独…。企業の本音を知る第一人者が、問題の真実を説く。
107	経済 2009.9/1		新日本出版社	2009	雑誌	『金融危機下の日銀の金融政策』 (p.112-124)
108	経済セミナー 2009.2・3合併号		日本評論社	2009	雑誌	『特集 世界同時不況の時代』(p.15-37)
109	週刊エコノミスト 臨時増刊 2009.4/13号 『タフ&理性 乗り切れ大不況』		毎日新聞社	2009	雑誌	『大不況の現実』 『乗り切るには 政策編』 『乗り切るには ミクロ編』 『フロンティア 環境』
110	週刊エコノミスト 特大号 2009.7/14号 『米国債暴落』		毎日新聞社	2009	雑誌	『史上最大の米国大量発行マーケットは「危うい」と見始めた』(p.18-20) 『米国債、ドル、米国経済の行方を読む』 (p.30-32)
111	週刊エコノミスト 2009.5/19		毎日新聞社	2009	雑誌	『欧州最悪』(p.20-39) 『これだけ増えた「ケインジアン」』(p.74-83)
112	週刊エコノミスト 2009.7/21		毎日新聞社	2009	雑誌	『株 根拠ある過熱』(p.18-32)
113	週刊エコノミスト 2009.7/28		毎日新聞社	2009	雑誌	『米国 立ち直れず』(p.18-31)
114	週刊エコノミスト 2009.8/4		毎日新聞社	2009	雑誌	『日本経済沈没』(p.18-39)
115	週刊エコノミスト 臨時増刊 2009.8/10号 『経済パニックは突然に』		毎日新聞社	2009	雑誌	『危機は終わったのか』 『通貨パニックの可能性』 『170兆ドルはどこへ』 『未知の経済』 『経済パニック大研究』 『勃興「安くて良い」新経済』
116	週刊ダイヤモンド 2009.6/13		ダイヤモンド社	2009	雑誌	『景気底打ち!? 2009下期全予測』 (p.30-79,128-155)
117	世界 2009.1		岩波書店	2009	雑誌	『大不況 -いかなる変革が求められているか?』(p.142-223)
118	中央公論 2009.8		中央公論新社	2009	雑誌	『激論 日本経済の生き残る道』(p.48-75)
119	Newsweek日本版 2009.8.26		阪急コミュニケーションズ	2009	雑誌	『景気回復見えた!』(p.16-25)
120	Newsweek日本版 2009.9.23		阪急コミュニケーションズ	2009	雑誌	『金融危機の傷跡』(p.16-24)
121	Forbes(フォーブス)日本版 2009.1		ぎょうせい	2009	雑誌	『金融危機と日本経済の行方』(p.22-47)